

3面 世界YWCA新会長紹介

6面 加盟YWCA中央委員会のお知らせ
2012年度日韓ユース・カンファレンスのお知らせ

7面 東日本大震災被災者支援募金使途 中間報告

The Young Women's
Christian Association

YWCA

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第30総会期主題
平和を実現する人々は幸いである—マタイによる福音書5章9節

4

APRIL
2012

No.707

www.ywca.or.jp

日本YWCAビジョン2015
(1)非核・非暴力による平和を構築する
・平和憲法をまもり、世界に広める
・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
・女性と子どもの権利をまもり
・パレスチナYWCAの活動を支援する
(2)若い女性のリーダーシップを養成する

主の平和を祈り、語り、行おう 憲法審査会始動、 注視を!

国会では、憲法「改正」を審議する憲法審査会が、昨秋、衆参両院で活動を始め、急ピッチで議論を進めています。また、自民党は4月に新憲法草案を発表し、改憲論議に拍車をかける構えです。今回は、日本YWCAが連携している「平和を実現するキリスト者ネット」事務局の糸井玲子さんに、憲法をめぐる現状について執筆していただきました。

第56回 国連女性の 地位委員会 (CSW)

Commission on the Status of Women

2月27日(月)～3月9日(金)にニューヨークの国連本部で「農山漁村の女性のエンパワメントと役割: 貧困と飢餓の撲滅、開発と現在の課題」をテーマに開催され、約4000人が参加、YWCAからは20カ国より70人が参加しました。日本YWCAから派遣された雀部真理さん(大阪YWCA会員)はフォーラムや分科会などで、東京電力福島原発事故による農村の被害状況などを報告しました。



アメリカYWCA主催レセプションにて
世界YWCA代表団メンバー

→4～5面に報告記事掲載

2007年、安倍内閣が強行採決して成立させた国民投票法の規定により、改憲発議のための「憲法審査会」が発足。18項目もの附帯決議をせざるを得ないほどに法的不備があり、4年間委員などが選出されず休会していたが、昨年11月に民主党がねじれ国会打開の手段として、自民党等の開始要請に応じて憲法審査会が始動した。

東日本大震災による死者・行方不明者1万9000人以上、家も家族も奪われ避難生活を余儀なくされている人々34万人という状況にあって、国は全力を挙げて救済・復興にあたるべき今、改憲目的の憲法審査会を始動するとは何事であろうか。しかも東日本大震災を理由に「緊急非常事態法制」を設ける改憲を声高に主張する民主・自民党

4月24日は世界YWCA日です

→3面に関連記事掲載

今年是全国会員総会が開催されます

日程: 2012年11月23日(金・休)～25日(日)
会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター
(東京・代々木)

員が過半数である。その必要はない。憲法前文に「われらは、全世界の国民が等しく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」と高らかに謳っているからだ。

発議要件を国会議員の「3分の2以上の賛成」から「過半数の賛成」に緩和すべきとする「96条改憲議連」には共産・社民党を除く各党議員200人以上が名を連ねる。さらに、中曽根康弘元首相・中山太郎元衆議院憲法調査会会長等の「押し付け憲法論」がまたぞろ出ている。日本国憲法は、GHQ民政局が日本人の案や世界の英知を集めて作成した案に基づいて、幣原内閣が憲法改正草案要綱を作成し国会に提出し、衆議院・貴族院の修正を経て1946年11月3日に公布された。日本国憲法を確定したのは日本国民だ。私見としては、誰がつくろうが良いものか良い。ただし第1章はキリスト者として不要と考える。

と信義に信頼し…国際社会において名誉ある地位を占めたい」として制定されており、その時その時の政権により変えることは許されない硬性憲法である。

●

昨年12月7日の参議院憲法審査会で民主党の今野東議員は「地震・津波・原発事故と人々の権利や暮らしを憲法との関係で検証。25条は『すべての国民の生活・生存権』、29条財産権は『これを侵してはならない』とある。復興・補償など未来に重要なことをまず行うべき」と発言した。民主党の約50%が護憲派である。政治の方向は数で決まる。民主党の党議拘束を超えて護憲を表明してほしい。

2月23日に開催された衆議院憲法審査会に、審査会事務局から出された資料の表題は、あからさまに「日本国憲法の改正手続きに関する法律（憲法改正国民投票の投票権年齢に関する検討条項）に関する参考資料」とある。内閣総務官、総務省と法務省の各局長が「憲法改正手続きの国民投票権年齢について、公職選挙法その他の法令

等を回数と時間をかけて審議した経緯」を30分ずつ説明した。官僚主導の政策に対し、国民の同意を得たことを示すための「憲法審査会」であることが判然とした。

●

私たち主権者は、市民の生活と命に直結する政府・国会の情報を常に知ることが大切である。この「憲法審査会」の今後にも大きな関心を持ち、首相・衆議院議長・参議院議長に「憲法を護れ」と請願し続けよう。

憲法は、アジア・太平洋戦争と第二次世界大戦で殺された5000万人の人々が「このように生きて！」と私たちに遣わしてくれた愛の言葉だ。憲法改悪は許してはならない。「世に遣わされた」私たちは、主の平和を祈りつつ、語り、歩み続けていきましょう。

糸井玲子

耳をすまっています！

小谷美智子

別れと出会いの春が、今年も巡ってきました。この4月中学生になる孫が、原発の事故以来私が書く文章を読んでおり、ある日、私に言いました。「ばーばーは残酷や」と。私は「人類はまだ放射能を制御する術を持っていない」と書いています。大変なことが起きてしまったという思いで過ごしてきました。

昨年の夏、神戸YWCAは8日間にわたる平和集会「被曝の時代を生きる」を持ちました。来場者の数の上では厳しい結果で、私はいつとき元気をなくしましたが、それは私の傲慢ではなかったかと今では思い返します。残暑厳しい中、何日も会場に詰めてくださったメンバーの思いをさらに次に繋ぐ道はどこにあるのかと考えます。時間の許す限りデモに参加します。「原発はいらない」という思いを行動にあらわすことが大切な時だと思うからです。福島の方が話される機会をとらえ、私に何が出来るだろうと耳をすませています。「YWCAの会員です」と名乗れば、「ああ！」と優しい眼差しを返してくださる方との出会いを重ねるたびに、あの戦争に反対できなかったことを反省して、戦後の活動を始められた先輩諸姉の歩みの確かさを感じています。1970年という早い時期に「核」否定の思想に立つ」を強調点に掲げてきた日本YWCAに連なる者の一人として、これからなすべきことは何なのでしょうか。

あれから1年がたちました。時間がたつにつれ、福島ではさまざまな軋轢の中、厳しい選択を迫られておられることが伝わってきます。私たちは決して福島を忘れていません。未来に向けて共に歩みます。

(神戸YWCA会員)



4月24日は 世界YWCA日です

一目でわかる世界のYWCA運動

- 活動範囲：世界中で2500万人の女性と少女を支援
- 年間プログラム参加者：1230万人
- 加盟YWCA数：108カ国（新規加盟を目指している国 20カ国）
- 若い女性の参加：加盟YWCA全体の41%で会員増加、67%で意思決定機関に若い女性が参加、70%が若い女性とともに研修を実施
- 女性のリーダーシップ：66%が女性に対するリーダーシップ・トレーニングを実施、3分の1以上が女性の政治参加拡大を推進
- SRHR&HIV：47%が家族計画支援、46%が生殖に関する健康支援、37%が妊産婦の健康と乳ガン対策

1855年にイギリスで誕生したYWCAは、以来150年以上にわたり、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界の実現を目指して活動してきました。毎年4月24日は世界YWCA日として、世界中のYWCAでこの運動の歴史を祝います。

策を実施、34%が一次医療を提供。57%がHIV意識向上、51%がHIV予防教育をそれぞれ実施。41%が偏見と差別への取り組みを実施、3分の1がHIVとともに生きる女性に支援サービスを提供

- 女性に対する暴力：53%が毎年恒例のYWCA非暴力週間キャンペーンに参加、33%が紛争地帯の女性と活動、30%がカウンセリングを提供、また22%が法的支援を提供
- パートナーシップ：81%が女性団体と、77%が若者団体と、74%が信仰に基づく団体と連携

（世界YWCA機関紙「コモン・コンサーン」146号より）

世界YWCA新会長紹介

デボラ・トーマス・オースティン Deborah Thomas-Austin



2011年7月14日、世界YWCA総会にて新会長としてトリニダード・トバゴ出身のデボラ・トーマス・オースティンさんが選出され、2015年まで会長を務めます。

オースティンさんは、2003～8年トリニダード・トバゴYWCA会長を務め、2007～2011年、前総会期の世界YWCA運営委員会において副会長として活躍しました。

グンボンズバンド世界YWCA総幹事と彼女が率いる素晴らしいチームの支援が加われば、この新たな挑戦に真正面から取り組むことができるかと確信しています。

これから4年間の世界YWCA運動へのビジョンを教えてください。

私が思い描くYWCA運動とは、大胆かつ積極的であり、誇りある伝統と高い社会的評価を尊重しつつ、コミュニティのニーズに適切に対応し、その否応なく変化するニーズにも柔軟に対応できるような運動です。あらゆる分野において、若い女性・少女を含む女性のリーダーシップと集団的な力を養成する、という目的を達成するためのYWCA運動のため努力が実を結ぶさまを思い描きます。

これからの任期中に世界YWCAが直面する課題は何であると思われませんか？

現在の金融環境に対応しつつ、確実に加盟YWCAとコミュニティの女性や少女のために使命

を果たし続けることです。他の多くのNGO同様、活動プログラムに資金を提供しつつ団体運営を維持するため、財源の基盤と基幹業務への資金調達を拡大する必要があります。

あなたにとって女性の世代間リーダーシップとは何ですか？

YWCA運動に対してあらゆる年代の女性ができる貢献を認め尊重することであり、私たち一人ひとりの互いに異なる見方や経験、それを互いに共有し合えることを大事にすることでもあるのです。

YWCA運動に対してメッセージをお願いします。

YWCAは156年にわたり、女性と少女に影響を及ぼす問題に取り組む大きな力となってきました。YWCA運動は、生き生きと成長し続けています。女性の権利を高く掲げ保護し、多様な女性と少女のために安全な場をつくり、これからも私たちの運動を築き上げ強化していきます。

（世界YWCA機関紙「コモン・コンサーン」147号より抜粋）

翻訳：吉田亜希

第56回 国連・女性の地位委員会 [CSW] 参加報告

テーマ 農山漁村の女性の エンパワメントと 役割

— 貧困と飢餓の撲滅、開発と現在の課題



「世界の農業女性円卓会議」にて
(左から2人目が筆者)

若い仲間からも支えられ 成長を実感

「CSWに行ってもうえませんか？ 今回テーマに「農山漁村の女性」が入ってるんです」と11月に日本YWCAより打診を受けて、きつと得難い経験ができるだろうとお受けしました。CSWは国連・女性の地位委員会のことで、経済社会理事會に特別諮問資格をもつ世界YWCAの一員として、日本からも毎年人を送っています。

2月23日から3月10日の約2週間半ニューヨークに滞在。CSW自体は、政府代表が話し合つて「合意結論」をまとめたり、決議案を協議して採択したりするプロセスです。そこに市民社会の声も取り入れようということで、国連の建物の中で国単位や国連機関主催の「サイドイベント」が開かれたり、近くの建物でNGO主催の何百もの「パラレルイベント」が開かれたり。400を超える国際NGOから数千人が結集しました。

CSW開幕前日・26日のNGOフォーラ

ムでは、世界YWCAのニヤライザイ・グンボンスバンダ総幹事が進行役を務める「農山漁村の女性パネル」に、パネリストの一人として登壇。アフリカをはじめとする開発途上国の女性は、水汲みや薪集めの負担・教育や医療へのアクセス不足・若年結婚・妊産婦死亡・HIV/AIDS...といった深刻な課題を抱える中で、日本の私が何を提起できるのか。迷った末に、都会の都合で押し付けられる原子力発電所や軍事基地、特に女性・子どもへの影響ということに絞つて話しました。また、南太平洋で暮らした体験から、モノの少ない環境の方が子どもが賢く育つと信じて田舎に引越したことも含め、価値観の転換を訴えたところ、思いの外多くの人から反響をいただき、7日の「世界の農業女性円卓会議」でもスピーチの機会を与えられました。

もうとつと若くはなくなっている私ですが、緊張を要する場面に押し出され、その度に大げさなほど褒めてもらうことにより、大いにエンパワーされました。YWCAは若い人に投資して育てる団体で、私自身25年前の世界総会出席に始まつていろいろな経験をさせていたできてきましたが、今回は若くは若い仲間からも支えられて成長。これが世界YWCAの言う「世代を超えたりーダーシップ養成」と実感しています。

● 残りの紙面でハイライトをご報告します。

☆世界各国からのYWCA代表のうち約40人は、毎朝7時からのミーティングで課題や経験を分かち合い、それぞれが輝きを増すような活躍の場を与えられ、素晴らしい

チームワークで多くのイベントをリード。

☆特に「若い女性の分科会」では、YWCAの20代メンバーがリーダーシップを発揮。国連会議で与えられた3分スピーチでは、地域別その他どのスピーチよりパッチの効いた明確な主張で、政府代表も襟を正して聞いていました。

☆この機会に世界YWCA、および米国YWCAと公的協議の場を持ち、米国YWCAから沖縄の基地問題を学ぶツアーに来てくださる案が浮上し、一気に具体化。☆さまざまな場面で、女性の性と生殖に関する健康の問題・人権の問題として、原子力・放射能問題を提起。

☆日本政府の原発輸出入り込み先とされるヨルダン、ベトナム、インドの国連代表部を日本聖公会の方々と共に訪ね、原発輸入をしないよう訴え。

☆日本政府提案の「自然災害におけるジェンダー平等と女性のエンパワメント」という決議案が放射線災害に触れていないことに対しては遺憾表明。この決議にはいいことがたくさん書いてあるものの、東北3県の復興会議の女性委員率など女性の参画の現状を思うと、その隔たりに嘆息。「日本が提案してこんな国連決議を通したんでしょ」と現状改善のツールに使わねばと思います。

数多くのパラレルイベントにも参加し、密度の濃い充実の日々でした。

大阪YWCA 雀部真理

原発事故が引き起こした女性と子どもへの影響

福島果樹園から見る 農地再生に向けての 女性主導の取り組み

大内有子（果樹園経営、福島YWCA会員）



©住田サーラ

CSWに急ぎよ参加できなかった大内有子さんに代わり、日本のNGOが主催するイベントで雀部真理さんが代読した講演内容をここに掲載します。

「福島」とは、「豊かな実り多き土地、神の助けを授かる島」という意味です。福島は今、試練の中で、大きな使命を与えられました。本日、私は、世界の皆様に、感謝と謝罪、そして福島の現状をお伝えするために、ここに参りました。

私は皆様に、福島の苦悩と希望を二つお伝えしたいと思います。一つ目は、子どもや妊婦の被曝実態です。先日、小学生の少女が、心の悩みを話してくれました。「私は将来、結婚できるか不安なんです。差別されるかもしれないと感じています。お母さんは、毎晩、私たちを寝かせた後、一人で泣いています。お母さんは、私たちが被曝させたことを気にして、夜も眠れないのです」。彼女は今、東京電力福島第一原発から20キロ離れた故郷（浪江町）から、福島市に避難しています。水素爆発が起きた3月12日は、町の避難指示に従って、原発から30キロ離れた地区（津島）に移動しました。しかし、町民8000人が避難したその場所は、1日で200 μ Sv（マイクロシーベルト）もの積算放射線量が計測された高汚染地帯でした（津島の医師が計測していました）。白い防護服を着た国の職員が放射線量を計っていましたが、避難してきた人々にデータを知らせることなく立ち去りました。

原発事故から、まもなく1年。福島市

では、やっと幼児や妊婦のホールボディカウンター検査が始まりましたが、小学生以上の子どもの検査は、これからです。国や自治体の遅すぎる対応に、母親たちの不安は増すばかりです。この現状を、私は、WHOやICRPなどの世界機関に訴えたいです！ 低線量被曝に関する正しい世界基準に基づき、日本政府への警告や指導を強化してほしい！ 子どもたちは、地球の未来であり、宝であると私は思います。一国の原子力政策の犠牲にしてはならないのです。今後、福島の私たちは、世界とのネットワークを早急に構築していきたいと考えています。皆様のお力をお借りして、子どもたちの心と体の健康のために、最善を尽くしたいと思います。

二つ目にお伝えしたいのは、安全な作物を供給するための農地再生の取り組みです。現在、福島市では8割の子どもたちが、避難せずに留まり、日常生活を送っています。母親たちの思いは一つです。「子どもたちの内部被曝を少しでも軽減したい！」そして今年、新たなプロジェクトがスタートしました。実は昨年、私たちの実証実験の中で、興味深いデータが得られました。有機質の豊富な農地や、微生物が活性化した畑から収穫された作物には、「放射能不検出」が多いという実験結果が出ています。今年は、私たちの取り組みが認められて、福島県の農地除染のモデル

事業にも選定されました。

福島市は、果樹栽培が盛んな土地です。春には、桃や梨、りんごの花々が咲きみだれる美しい花園になります。この土地で、農地を再生しながら、安全な作物を子どもたちに提供していきたい。そして将来、子どもたちが「福島に生まれて良かった」と言える故郷を創っていきたく思うのです。どうぞ皆さん、福島の子どもたちに会いに来てください。そして福島で、原発事故がもたらした現状を見ていただきたいのです。

本日3月1日は、私たち日本人にとって悲しみの日です。58年前の1954年、日本の漁船「第五福竜丸」がビキニ環礁で、アメリカの水爆実験の死の灰を浴びた日です。23人の乗組員が被曝しました。14万人の命を奪った広島型原爆の1000倍の爆発によって、放射能は地球全体に拡散しました。2000回以上の核実験で汚染された地球。私たちは今、福島でその痛みを感じています。ネイティブアメリカンのイロコイ族は、7世代後の子どもたちを想いながら物事を決めると聞きました。そして、ホビ族は、「母なる地球の大地から、ウランを採掘してはならない」と訴えています。福島も、心一つにして訴えます。地球のすべての命を守るために、核を廃絶しましょう。世界が生き延びるために、今こそ決断しましょう。

2012年度 日韓ユース・カンファレンスの ご案内

昨年韓国で行われた日韓ユース・カンファレンスの最終日に、日韓両国のユースがそれぞれの国における原子力発電所（以下原発）の現状を発表しました。そこで、原発が抱える危険性や原発を取り巻く社会構造は、国によって違いはないことを学びました。帰国後に行われたフォローアップ・ミーティングの後、2011年度実行委員会は日本開催となる次年度のテーマとして、原発問題に取り組むたいと希望しました。それを受けて、2012年度は、長年浜岡原発問題に取り組んでいる静岡YWCAの協力の下、8月24日（金）～27日（月）に静岡で原発問題をテーマに開催することが決まりました。

日韓ユース・カンファレンスは、30歳以下のユースが主体となりプログラムを企画・運営することによってユースのリーダーシップを育むとともに、日韓YWCA交互で開催することにより顔が見える関係を築き、東北アジアの草の根の平和構築を実現することを目的としています。

ユースがこのプログラムを「身体・心で創る平和を経験する」と表現しています。一つひとつ積み上げていく過程の中から生み出される平和を体験してみませんか。皆様の参加をお待ちしています

日韓ユース・カンファレンス担当運営委員
木村真理子

*詳細は随時ホームページに掲載します。

2012年度

加盟YWCA 中央委員会のお知らせ



声が届けられることを願い、主な協議事項をお知らせいたします。

今年11月には、3年（次期からは4年）に一度の全国会員総会が開かれます。日本YWCAの将来と現在の社会状況を見据えながら、次総会期の活動や体制を考えていく必要があります。今年度は、そのYWCAのビジョンを皆さんと協議し、共有する場ともなります。

5月26日（土）・27日（日）、2012年度加盟YWCA中央委員会が開かれます。加盟YWCA中央委員会は、総会での決議事項を実行する責任を担い、この1年間の活動を検討し次の1年に向けてさらなる対策を協議し決定していく場です。今年度は日本YWCAの総会に向けた最後の場です。できるだけ多くの会員の

今年総会期のキーワードは、「YWCAを元気にする」です。同時に多岐にわたるビジョン2015で掲げられた活動目標も大切なキーワードです。従って今度の加盟YWCA中央委員会では、まず世界YWCAのテーマである「女性が創り出す安全な世界」の具体化について皆さんで意見を出し合い協議できたらと考えています。なぜ女性団体であるYWCAが、平和や人権・環境・非核の問題に取り組む

むのでしょうか。なぜ、私たちの活動が若い女性のエンパワメントにつながるのでしょうか。その思いや大切さを今一度皆さんで共有することで、次総会期に取り組むべき優先課題が見えてくるのではないかと考えています。

加盟YWCA中央委員会に先立って会長会を持ちます。会長会ではこれまで進めてきた、SGMA（適切な運営と説明責任の基準）の総合的な分析を踏まえ、私たちの組織の課題や良い点を共有します。また、YWCAの活性化を目指した「YWCA人材リスト」の活用や広報&ファンドレイジング委員会による効率的な寄付集めや広報についてのセッションも予定しています。

2011年度加盟YWCA中央委員会

準備委員長 吉村千恵

種

喜ぶ人と共に喜び、
泣く人と共に泣きなさい。

（ローマの信徒への手紙12章15節）

福島県新地町の尚英中学校での補習クラスに、国語の担当者として伺いました。部活の合間をぬって、1・2年生のそれぞれ約30人が自主参加してくれました。3・11は自宅学習日でしたが、全員無事だったそうです。安否を確かめ終わるまで、先生方はさぞ心配されたことでしょう。教材は『徒然草―仁和寺にある法師』でした。

未だ石清水八幡宮を拝んでいないのを無念に思った法師が、思い立って一人で行き、麓の極楽寺だけで帰ってしまう。参詣者が八幡宮のある山へ登るのに気づきながらも「神へ参るこそ本意なれと思ひて、山までは見ず」との老法師の思い込みを惜しみ、「先達はあらまほしきことなり」と嘆息する兼好法師の言葉に、「一人」は本質を見失いがちであると、赤い頬が印象的な2年生男子生徒が心えてくれました。

大災害を経験したという深い悲哀が若い魂の奥底に沈殿していることでしょうか。容易に他者と共感できない孤独の問いの中で、ふと、決して「一人」ではない自分を発見していく。長い時間を経て、喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣くことのできる人となるのだと思います。新地の中学生が頼もしく映って、帰ってきました。

杉村みどり

日本YWCA運営委員

日本YWCA東日本大震災被災者支援募金使途 中間報告

日本YWCAは被災者支援プロジェクトを立ち上げて、東日本大地震の地震・津波、そして東京電力福島第一原発事故による被災者へ、国内外の皆さまからの募金30,392,515円及び助成金13,776,500円（2012年2月末日現在）を用いて、2011年3月中旬～4月中旬までは緊急支援、それ以降は中期支援を続けています。皆さまからの暖かいご支援にお礼を申し上げ、緊急支援および中期支援の募金使途中間報告をいたします。引き続き日本YWCAは、各地域YWCAでリフレッシュプログラム（保養プログラム）他、仙台YWCA震災復興支援室「こころの杜」や福島YWCAを拠点に、長期に支援活動を継続します。引き続き募金のご協力をお願いいたします。

■緊急支援活動(2011年3月中旬～4月中旬)		2,698,517円
● 物資支援		2,698,517円
地域YWCA・韓国YWCA・企業からの支援物資(ミネラルウォーター・乾麺・カレー・お菓子・紙おむつ・生理用品など)を宮城・福島・茨城・栃木・千葉県の被災地へ送付		
■中期支援活動(2011年4月～2012年2月現在)		22,909,415円
● 避難者受入れのための住宅支援～セカンドハウスプログラム～		2,851,174円
地域YWCAが紹介する住居・家庭に、福島県在住の乳幼児・就学期の子どもをもつ家族、高齢者、障がい者、40歳以下の単身女性、外国の方々を対象に、家族単位・子どもだけのグループなどでの利用を受け入れ		
〈夏のセカンドハウスプログラム〉 1,623,611円		〈冬のセカンドハウスプログラム〉 1,227,563円
札幌・東京・横浜・新潟・名古屋・神戸・呉・沖縄の各YWCAが12家族36名を迎え入れ		東京・横浜・名古屋・京都・大阪・神戸・松山のYWCAが9グループ36名を迎え入れ
● 被災地の子どもたちの リフレッシュプログラム(保養プログラム)		13,441,120円
被災地の母子や子どもたちが、ひと時の間だけでも不安や心配から解放されるように、各地域YWCAで、キャンプや観光、ボランティアとの交流などのリフレッシュプログラムを実施		
〈2011夏のリフレッシュプログラム〉 6,418,560円		〈2011冬のリフレッシュプログラム〉 1,037,230円
*札幌「北の大地ですごす夏休み～みどりの風に吹かれてみよう～」 8月2日～11日 親子9組20名		*札幌・函館YWCA共催 「北の大地ですごす冬休み～青い空、白い雪、ひかりの街 ようこそ函館へ～」 1月5日～8日 親子13組(子ども18名、おとな13名)
*福島「教育部書道教室夏季プログラム」7月30日 子ども21名		〈2012春のリフレッシュプログラム〉 4,356,000円
*東京「新地っ子の夏休み」8月19日～23日 子ども29名参加		*東京「東京近郊の避難母子と福島に残っている父親のための家族キャンプ」 3月24日～26日 4家族参加予定/3月30日～4月1日 4家族参加予定
*京都 「ひと夏のマイセカンドハウスプログラムin京都～京都で夏の思い出づくり～」 7月29日～8月12日 子ども14名、おとな2名		*静岡「親子わくわくピクニック～福島県飯館から静岡へ避難保養プロジェクト～」 3月23日～25日 親子10組(子ども15名、おとな10名)参加予定
*大阪「夏キャンプ 福島送迎プログラム」8月5日～10日 子ども12名、おとな5名		*京都「春のリフレッシュキャンプin京都」3月26日～4月1日 子ども15名参加予定
*神戸「神戸YWCA・神戸YMCA共同企画 夏のわいわいキャンプ」 8月10日～15日 子ども11名、おとな3名		*大阪「大阪わいわいステイプログラム」3月24日～31日 子ども15名参加予定
*福岡「ほっとひととき ママと行く九州のんびりキャンプ」 8月22日～24日 親子6組(子ども14名、おとな8名)		*神戸「ひょうご ちょっとのぞいてみようツアー」 3月24日～29日 7家族(子ども13名、おとな9名)参加予定
〈その他リフレッシュプログラム〉 5,000,000円		
*広島「ヒロシマ・フクシマ アート交流」12月25日～12月29日 高校生17名、引率教員2名、その他3名参加		
*福島・日本YWCA共催「クリスマス・ミニコンサート」12月8日 30名参加/*湘南「子どもたちに与えた災害の心のケア」8月22日 22名参加		
*福島・大阪・神戸・広島・呉YWCA合同「福島の放射能被害について」7月14日 於大阪 15名参加、15日 於神戸 25名参加、16日 於広島 21名参加		
*日本YWCA「ひろしまを考える旅」8月8日～10日 高校生2名、大学生4名参加/*日本YWCA「日韓ユースカンファレンス」8月30日～9月2日 大学生3名参加		
● 福島県新地町での支援活動		2,373,118円
〈福島県新地町災害ボランティアセンター運営協力〉 2,098,132円		〈9月以降の福島県新地町での支援活動〉 274,986円
(8月10日「しんち町生活支援ボランティアセンター」として組織改編・再スタート) 4月から8月まで、11人のボランティアコーディネーターと、家屋の泥出しや片付けにあたったボランティアを派遣		*10月から2回、中学校の補習授業を担当するボランティア毎回2名派遣 第1回10月1日:中学3年生20名参加 第2回11月12日:中学3年生7名参加 第3回12月10日:中学3年生8名参加 第4回1月21日:中学1・2年生40名参加 第5回2月18日:中学1・2年生60名参加
		*新地町の中学生230名の震災・津波の体験作文のデータ化と英訳に、高校生を含むボランティアが協力
● 仙台、福島でのこころのケア		2,469,787円
〈シンチ・ハートプロジェクト〉 200,975円		
名古屋YWCAが、福島県新地町の3つの小学校の保健室とテレビ電話でつながり、子どもたちの話を聴き、相談にのり、こころのケアを実施(テレビ電話はシステムズ合同会社による無償提供) 2012年2月現在の相談回数は50回(述べ107名)		
〈復興支援室「こころの杜」〉 2,000,000円		
長期支援の拠点として仙台YWCAが「こころの杜」を開設。被災者の方へのこころの支援および継続的なボランティア確保のために、ボランティア養成の他、中長期にわたる支援者の方々のためのこころのケアも実施。		
「こころのケア 傾聴サロン」4月から1回開催/「バスツアー」10月28日 仮設住宅にお住まいの方等25名参加、11月1日～3日 同36名参加		
*「被災地の方の週末避難の受入れ」8月から毎週末、1家族(子ども3名・おとな2名)を受け入れ		
「心と体のケアボランティア養成講座」8月から1回開催 毎回15名～20名参加/「被災地で活動しているボランティアへ食事を提供」4月から週1回提供		
〈福島でのこころのケア〉 268,812円		
*福島YWCA「こころのケアサロン」6月～11月 月1回開催 毎回15名～20名参加		
● その他		1,774,216円
〈仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク事務局へボランティア派遣〉 184,674円		4月～8月 ボランティア12名派遣
〈ガイガーカウンタ、サーベイメーター購入〉 1,024,569円		〈現地調査等諸経費〉 564,973円
緊急支援および中期支援の合計		25,607,932円

この募金使途中間報告は、日本YWCA東日本被災者支援募金および助成金から用いた金額です。この他、各地域YWCAで実施した支援プログラムは、各地域YWCAが受けた寄付や助成金も含めて実施しています。(2011年3月18日～2012年2月末日現在)

浜岡原子力発電所 脱原発ツアーに参加して



2月17日(金)〜18日(土)、静岡・京都YWCAの平和委員会合同企画による浜岡原子力発電所・脱原発ツアーに参加しました。静岡YWCAの方々、そして「浜岡原発を考える静岡ネットワーク」の鈴木卓馬さん、地質研究者の大石貞男さんに現地を案内していただくことになりました。静岡駅から浜岡原発までマイクروبাসで1時間半、原発の敷地北側に平行して国道150号線が通っており、原発道路と呼ばれています。国道と隣接している浜岡原子力館(資料館)には実物大原子炉模型があり、カラフルな蛍光色の光で飾り立て、まるでアミューズメントパークのようです。安全性や地震対策について「もともと地球にやさしいエネルギーである」と説明していました。海

抜62mの展望台からは、原発を取り囲むように茶畑や浜岡の町が広がっていました。海側には原子力発電所が立地し、2013年初頭の運転再開に向けて、海拔18mの防潮堤を1000億円かけて現在建設中で、町はその労働者で賑わっているとお話でした。周辺の地盤は強固な岩盤と言われてきましたが、実際は砂地そのものという印象でした。原発の敷地内に平行して貫く4本の断層は1号機と2号機建設後に発見され、その後の調査で3号機〜5号機の建屋は断層と断層の間に据えられています。最近も原発の近くで大きな地盤隆起を起こした大地震断層が見つかっています。近年上流のダムの影響により砂浜も痩せて、海岸浸食が進み地表が表れたり防波堤の根元が削ら



れたり、各所で対策工事をしています。この原発は他に類を見ない遠浅の砂浜に面しているため、接岸ふ頭がなく、沖合600m水深6mの所に、1基ずつ冷却用水の取水口を設けています。津波が来ればパイプが壊れ、砂が詰まり、水の供給が出来なくなると炉心損傷に陥り、かつてない大惨事を招きかねません。これらの危機迫る不安に対して、中部電力は納得のいく答えを出していません。今回のツアーを通して、浜岡原発は砂上の楼閣そのもので極めて危険であると感じました。このような現状での運転再開を許してはならないと強く願います。

京都YWCA イエニツクふたみ

また沖縄へ、平和を求めて

3・11で福島にいくつも原発があると知った時、「あ、沖縄と同じだ!」と思った。原発が安全なら需要の大きな大都市に造るべきだし、軍事基地が日本を守る抑止力として大切ななら日本の中心に置けばいい。

1月、平和ツアーを手がけるセンターツーリスト主催「9条の大切さを実感する沖縄の旅」に参加した。那覇市街から続く天久新都心には、モノレール・高層ビル・大型商業施設や大企業が支社ビルを連ねるなど、米軍住宅地返還後10年余りの目覚ましい経済

発展の様子が見られた。

反戦地主の象徴のような池原秀明さんの牛舎を訪問。那覇市議を務める傍ら、嘉手納基地弾薬庫内に建てた牛舎を、法と知恵を駆使して少しずつ拡張し、多くの雇用を生み出している。それによって軍用地収入に頼らず働くことに意義があると話された。しかし、まだまだ嘉手納基地は見渡せないほどの広大であることに変わりはない。高速道路を往復して訪れた辺野古の海辺にある移設反対団結小屋では、小雨の中ブルーシートの中で炭火が焚かれて

いた。この岬を埋め立てて180度以上の水平線が見えなくなる巨大な滑走路が造られるとは! どうしても許せない。軍事基地は人類の平和共存を脅かすものであり、「生命を選ぶ」YWCAの理念に反するものである。1990年以降3度日本YWCA主催の沖縄の旅に参加して、そのつど「沖縄から日本が見える」、すなわち安保や9条との矛盾などの問題が見えてくる。あらためて沖縄が真の美ら海・美ら島になるまで沖縄の人たちの熱い思いに連帯していきたい。

大阪YWCA 原 紀子

ご協力ありがとうございました

- 賛助費**
 甲子敏江 兼清和子 郡 恭子
 東山千代 町田裕子 辻加代
 山中光子 吉川長太 湯口 恵
 ギンシユ陽子
- 活動支援サポーター**
 寺沢京子 鹿野幸枝
- 多文化共生サポーター**
 (国際協力基金)
 新潟YWCA 静岡YWCA
 神戸YWCA 熊本YWCA
 (パレスチナYWCA支援基金)
 是常孝子 神戸YWCA
- (オリーブの木キャンペーン基金)**
 是常孝子 阪本和子 俵 恭子
 山下泰栄 小泉孝典・美紀
 函館YWCA 弘前YWCA
 仙台YWCA 静岡YWCA
 神戸YWCA 松山YWCA
 長崎YWCA 甲府YWCA
- (パキスタン洪水タイ洪水被災者支援)**
 日本基督教団市川三本松教会
 仁木三智子 浦和YWCA
 平塚YWCA
- (タイ洪水被災者支援)**
 キリスト教一致祈禱週間市川同門礼拝
 プール学院中学校・高等学校
 クリスマス献金
 大野綾子 横浜英和女学院
 女子学院宗教部
 横浜共立学園中学校・高等学校
 活水中学校・高等学校
 関東学院中学校・高等学校
 とわの森二愛高等学校生徒教職員一同
 日本キリスト教団聖ヶ丘教会
 日本基督教団高輪教会
 日本キリスト教団千葉本町教会
 甲府YWCA 神戸YWCA
 長崎YWCA 福岡YWCA
 横浜YWCA
- 若い女性育成サポーター**
 玉川聖学院
 東洋英和女学院中高部母の会
- (2012年7月20日現在 敬称略)
 *被災者支援基金に関しては、6月号に掲載させていただきます。

発行所 財団法人日本YWCA
 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8
 Tel. 03・3264・0661
 office-japan@ywca.or.jp

【駿河台オフィス】
 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11
 東京YWCA会館302号室
 Tel. 03・3292・6121/FAX 03・3292・6122

編集発行人 鈴木伸子
 振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
 定価1部 150円
 年間購読料 1,260円(送料込)